動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番
96.12.19 No.4519

これが国労解体方針の正体だ！

―奴隷の誓い―「第3次労使共同宣言」―

ＪＲ総連・革マルの、「国労解体方針」とは、つまるところ、当局に奴隷の忠誠を誓い、当局の力を使って国労を潰そうというものだ。

この、根拠となっているものが、「第三次労使共同宣言」だ。

ＪＲ東日本とＪＲ東労組が今年の七月一日に締結した「第三次労使共同宣言は、八七年八月の第一次共同宣言、九二年五月の第二次共同宣言に続くものだが、「労使共同宣言」は、いずれもＪＲ東労組が組織的な危機を迎えた時に締結されている。

第一次は、八七年の四月一日の国鉄分割・民営化の直後に旧鉄労系が当時の鉄道労連から脱退しようとした時。第二次は九二年五月に箱根以西の東海、西日本、四国、九州のＪＲ総連からＪＲ連合への分裂の最中に締結された。

今回の締結も、新潟におけるＪＲグリーンユニオンの結成という事態の中でだ。

こうして見ると、共同宣言締結とは、支配権力からの「お払い箱」になることを恐れたＪＲ東労組・革マルが、組織的危機を乗り切るために、当局との結託体制の延命をかけて行う、「奴隷の誓い」である。

事実、ＪＲ東労組自身が、次のように述べている。「今次宣言は決してこれまでの単なる延長上にあるのではない」「わが労使をターゲットにした悪辣な攻撃がエスカレートしている」「わが労使関係の破壊を狙った様々な攻撃は激しさを増している」から、この「労使共同宣言を締結したのだ」、と。

労使共同宣言＝国労解体

今回の宣言は、「より一層の健全かつ強靱な労使関係をめざして、・・・・　一切の外部干渉・介入を排除する」と結ばれている。あまりにも異様な表現だ。内容は、(1)、これまで以上に、全面的に、当局に屈服・協力する。(2)、しかし、（結託体制を）切るならば、松崎の「山手線をガタガタにする」発言に見られる列車妨害の圧力をかけて、(3)、宣言の「強靱な労使関係を」守るために、国労や動労千葉を解体するというものだ。

「健全経営の確立を労使の共通の使命と宣言し・・・労使協力体制のもと・・・経営を順調に推移させ大きな成果を上げてきた」「我々労使は、今後の難局を乗り越え、かつ厳しい競争市場でも生き残ることの出来る企業体質づくりに向け」、会社の発展のために、（それを）「ジャマする」「働かない、協力しない」―国労、動労千葉は許さない―これが「国労解体方針」の根底にあるメチャクチャな論理だ。

こんな連中が、よくも「国労は変質した」「自民党権力者・悪徳経営陣に身を売った国労」と言えたものだ。

組合員に奴隷の忠誠心を強要

そして、「自主自立の経営の堅持と企業内労働組合主義に撤することにより、一切の外部干渉・介入を排除する」と、結託体制を維持するためには、戦後例を見ない、日本最大の不当労働行為推進企業であるＪＲ東日本に対する、運輸省・労働省、労働委員会など、いかなる「指導」・「介入」も「一切の外部干渉・介入」として「排除する」。

その下で、勝浦運転区廃止攻撃や国労東京ベンディング職場に対する処分の乱発など、国労や動労千葉破壊の不当労働行為をやりとおす、としている。

「第三次労使共同宣言」の締結によって、松田社長をはじめ、ＪＲ東日本当局も「死なばもろとも」とばかりに、ＪＲ東労組・革マルとの「労使結託体制」を強めているが、墓穴を掘るのは当局の方だ。

また、共同宣言はＪＲ東当局とＪＲ総連・革マルの結託体制、いわゆるＪＲ体制の最弱の環であるＪＲ総連の危機を一層深めるものでしかない。

「収益基盤をさらに強固なものとする」「会社存立の原点は、収入を確保すること」「会社を発展させるために」―これは、ＪＲ東労組の組合員に対してもなお一層の労働強化と権利の剥奪をもたらす。

合理化には全面協力し、「国労は人間じゃない、クズだ」と、働く者同士の連帯、人間性を否定するやり方。現場のＪＲ東労組組合員の不満や怒りは鬱積している。高崎における青年労働者の決起は氷山の一角だ。

今こそ革マル打倒へ 総決起を！

そしてなによりも、この結託体制を維持するためには、国労と動労千葉を解体しなければならない。ここにしか、ＪＲ総連・革マルの生き残る方法がない―ＪＲ総連・革マルは、組織存亡の危機にたっている。「国労解体方針」は危機ゆえの凶暴化だ。それも、当局の力なしには一日たりともたない代物だ。

今こそチャンス！敵の攻撃をこちらの好機ととらえ、職場で地域でＪＲ東労組・革マルの反労働者性を明らかにし、当局と一体となった合理化、不当労働行為と闘い抜こう！

これをとおしてＪＲ総連組合員の獲得、ＪＲ総連解体・組織拡大をかちとろう。ここに、解雇撤回・清算事業団闘争勝利、原職奪還、差別・選別粉砕、国鉄決戦勝利の道がある。

闘いの時は今、総決起しよう！